

令和8年9月11日

保護者各位

鳥栖市立若葉小学校
校長 権藤 暢道

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和8年度全国学力・学習状況調査について

令和8年4月23日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は次のとおりです。

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 調査問題では、①と②が一体的に問われています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校児童の姿

(1) 国語について

- ・平均正答率は、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・記述式の問題では無解答率が全国平均より上回っており、自分の考えをまとめたり文章に表したりすることに困難さをもっている児童がいることが分かります。
- ・「知識及び技能」の観点については、平均正答率が、全国の平均正答率を一部上回っていました。漢字を正しく読み書きしたり、言語を場面に即して使ったり、文と文のつながりを適切に考えたりするなどの基礎的な力が身に付いていることがうかがえます。今後も、教科「日本語」の学習内容などとも関連させながら指導をし、児童の言葉に対する豊かな感覚を磨いていきます。
- ・「思考・判断・表現」の観点については、全国正答率を下回っていました。とりわけ、「書くこと」の内容における「引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題、「資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題の正答率が低い状況でした。例えば、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くための構成を考える活動や、効果的に表現するためにどのような情報が必要なのかを検討する活動など、考えを整理して書く力を高める指導を日々の授業で、意図的継続的に行う必要があると考えます。

(2) 算数について

- ・平均正答率は、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・記述式の問題での無解答率は、全国平均よりも低い問題が多く、自分の考えを何とか表そうとする意欲が見られ、よい傾向だと捉えられます。
- ・「知識及び技能」の観点については、平均正答率が、全国の平均正答率と同程度かやや下回っていました。「数と計算」の領域は同程度の正答率でしたが、「図形」「変化と関係」の領域の正答率は全国平均を下回っていました。図形や立体の基本性質、基準量・比較量・割合の意味の理解と関係の整理、単位量あたりの大きさの理解など、基礎的な事項について教科書の内容の復習を繰り返し行い、習熟を図る必要があります。
- ・「思考・判断・表現」の観点については、全国正答率を大きく下回っていました。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校児童の姿

○全73の質問項目から、全国と比較したときに概ね良好(同等かそれ以上)な結果であったもののうち、特に顕著であった項目を以下の表中に挙げています。

質問項目	本校の割合(%)	全国の割合(%)
①自分にはよいところがあると思いますか。[当てはまる・どちらかといえば当てはまる]	89.1%	85.6%
②将来の夢や目標を持っていますか。[当てはまる・どちらかといえばあてはまる]	85.5%	81.8%
③人が困っているときには、進んで助けていますか。[当てはまる・どちらかといえば当てはまる]	96.4%	92.7%
④人の役に立つ人間になりたいと思いますか。[当てはまる・どちらかといえば当てはまる]	100.0%	95.8%
⑤いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。[当てはまる・どちらかといえば当てはまる]	98.2%	96.2%
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。[当てはまる・どちらかといえば当てはまる]	92.8%	80.1%

- ・自分のよさに目を向けることができる児童の割合が、全国平均と比べて高い結果でした(①)。家庭での教育はもちろん、全校で取り組んでいる互いのよさを認める活動など、自己肯定感を高める取組の影響も大きいと考えます。将来についてよく考え、そのために様々なことに興味をもって取り組み、自分の力を高めようと努力する児童も多くいます(②)。
- ・自分のことだけでなく周囲の人へも目を向け、自分にできることがあればやりたいという気持ちをもつ児童の割合が全国平均と比べて高く(③④)、温かく思いやりをもった児童が多いことがうかがわれました。
- ・いじめについての質問には、ほとんどの児童が「いけない」と回答していました(⑤)。学校生活を楽しく過ごすために、「友達を大切にする」「いじめはぜったいに許さない」という意識を一人一人が高くもっていることが結果から感じられます。
- ・地域や社会への関心も高く、自分自身もできることをやりたいと思っている児童の割合が全国平均と比べてきわめて高いという結果でした(⑥)。これは、児童が、日頃から地域の方々に守られていると感じていることの表れであるとも考えます。
- ・朝食の摂取状況については、「全く食べていない」は 0%でしたが、「あまり食べていない」と答えた児童が全体の 5.5%いましたので、100%の児童が朝食を食べて登校することを目指したいものです。「毎日きまった時刻に起きる」ことは、ほとんどの児童ができていましたが、一方で、寝る時間については、少し遅くなっている等、課題のある児童も見られました。
- ・本校では 6 年生の家庭学習の目標時間を 60 分としています。その目標をほとんどの児童が達成していました。また、「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」という項目に肯定的な回答をした児童の割合は 83.7%と高く、自ら学ぼうとする意欲が感じられます。普段取り組んでいる自主学習ノートの内容からも、児童の学びの広がりが見て取れます。
- ・「学校に行くのは楽しいと思う」(87.3%)、「友達関係に満足している」(87.3%)と学校生活に対して充足感を感じ、肯定的な回答をしている児童の割合は多いものの、やはり何らかの不安や不満を抱えている児童も一定数はいるという結果となりました。

4 今後の改善策（児童の力をさらに伸ばすために）

- 学校では、児童が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、基礎基本の定着の徹底はもとより、児童の発言を大切にしたい対話の多い授業づくりを今後も継続して行います。
 - ・特に算数については、数量の求め方を数や言葉を用いて記述する学習、与えられた複数の資料(文章・図表・グラフ等)から必要なことを読み取って考え一定の条件の中で答えをまとめる学習などを、日々の授業で意識的に取り上げ、「思考・判断・表現」力の育成のための指導改善を行っていきます。
- 学習や生活の振り返りを定期的に行い、自分の成長や課題を見つめさせ意欲の継続を促します。
 - ・いじめについては、児童の現在の気持ちを今後も継続できるよう、引き続き確かな指導を行い、全ての児童がいじめは許さないという考えをもてるようにしていきます。
 - ・児童なりの地域参加・地域貢献が積極的にできるよう、学校でも継続してその大切さを話していきます。
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化で基本的生活習慣の根幹を整えることを一層推進していきます。
 - ・定期的に設定している家庭学習週間や家庭学習推進日について、その目的をご家庭と共有し、協力しながら、児童が自ら学ぶ姿勢を育てていきます。
 - ・毎月の心のアンケート、日々の学級・学年指導、SC や SSW の積極的な活用など、児童の生活の安定と心のケアに係る充実を今後も図っていきます。
- ご家庭でも、下記のことにご留意いただき、お子様への温かい言葉掛けをお願いいたします。

生活のリズムを整え、お子様とのコミュニケーションの時間を大切にしてください。

- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」で、元気とやる気の出る体と心を育てましょう。
- ◎「生活の3点(起床時刻・夕飯の時刻・就寝時刻)」をできるだけ固定させ、生活リズムを整えましょう。
- ◎会話を多くもち、がんばった過程やできたことを大いにほめましょう。

★佐賀県教育の合言葉 「ほめるから、はじめる。はじまる。」

